～しあわせの島へ～

奄美市『未来づくり』総合戦略 2025(案)

（まち・ひと・しごと創生総合戦略）

令和７年３月

奄美市

～目　　次～

Ⅰ　総合戦略策定にあたって 1
Ⅱ　戦略の位置づけと計画期間 2
　Ⅰ．戦略の位置づけ 2
　　２．計画期間 2
Ⅲ　政策の方向 3
　Ⅰ．基本的な考え方 3
　　（Ⅰ）目指す将来像(みんなで実現するなりたい姿) 3
　　（２）基本理念 3
　　①みんなで生活満足度向上を目指します 3
　　②成長の源泉である元気な経済活動を目指します 3
　　③未来を担う次世代へ「しまの誇り」を継承することを目指します 4
　　（３）全体指標 4
　　①市民の生活満足度向上などを確認する指標（数値化できない指標） 4
　　②人口減少対策の効果を確認する指標（数値として確認する指標） 5
　２．戦略の目標 6
　　（Ⅰ）社会動態をプラスにする！ 6
　　（２）子育て世代を増やす！ 6
　　（３）出生数を増やす！ 7
　　（４）人口減少に対応できるしまづくり！ 7
　３．戦略の全体像 8
Ⅳ　施策の方向 9
　Ⅰ．基本理念Ⅰ「みんなで生活満足度向上を目指します」 9
　　（Ⅰ）基本的方向 9
　　（２）具体的な施策と数値目標 9
　　①子育ての“困った”をなくそう 9
　　（Ⅰ―Ⅰ）地域における子育て支援の充実 9
　　（Ⅰ―２）親子の心とからだの健やかな成長を支える取組の推進 10
　　（Ⅰ―３）支援を必要とする子どもや家庭を支える取組の推進 10
　　（Ⅰ―４）みんなにやさしい　“子育てのしま”づくり 10
　　②健康・医療の“不安”をなくそう 11
　　（２―Ⅰ）市民主体の健康づくりの推進 11
　　（２―２）健康を支え合う地域づくり 11
　　（２―３）医療の確保 12
　　③身近な生活の“問題”をなくそう 12
　　（３―Ⅰ）定住促進による活気のあるしまづくり 12
　　（３―２）暮らしを守る防災力の向上 13
　　（３―３）持続可能な地域公共交通体系の構築 13

２．基本理念Ⅱ「成長の源泉である元気な経済活動を目指します」 14
（１）基本的方向 14
（２）具体的な施策と数値目標 14
④しまで働く人を増やそう 14
（４―１）民間・行政が一体となり「働き手確保」に向けた「移・職・住」※の総合対策の推進　（※移住・職の確保・住居の確保） 14
（４―２）地域外から外貨を稼ぐ仕組みづくり 15
（４―３）多様な働き方の推進 15
（４―４）しまの情報発信の充実 15
⑤しまの「しごと」を応援しよう 16
（５―１）「ありのままのしまの魅力」を引きだす観光関連産業の進化 16
（５―２）「かせげる農林水産業」実現に向けた取組の推進 16
（５―３）チャレンジできる環境整備 17
（５―４）デジタルを活用した社会課題解決 17
（５―５）誰もが情報を暮らしに活かせるしまづくり 18
３．基本理念Ⅲ　「未来を担う次世代へ『しまの誇り』を継承することを目指します」 19
（１）基本的方向 19
（２）具体的な施策と数値目標 19
⑥しまで学ぼう　しまに学ぼう 19
（６―１）未来を切り拓くための能力を伸ばし、社会で自立する力を育む教育 19
（６―２）信頼され、地域とともにある学校づくりの推進 20
（６―３）地域全体で子どもを守り育てる環境づくりの推進 20
（６―４）生涯を通して学び活躍できる環境づくりとスポーツ・文化の振興 20
⑦世界の宝にふさわしいしまにしよう 21
（７―１）世界の宝「生物多様性」を守り未来へつなぐ 21
（７―２）世界自然遺産にふさわしい　持続可能なしまづくり 21
（７―３）世界自然遺産についての広報・PR 21
⑧みんなで「しまさばくり」をしよう 22
（８―１）集落や地域活動の活性化による地域づくり 22
（８―２）マルチステークホルダー・パートナーシップによる課題解決に向けた体制構築： 23
（８―３）男女共同参画社会の形成の促進 23
（８―４）大学等との連携による関係人口の創出や「知」の還元 23
（８－５）奄美大島共同キャンパスの具体化 24
（８―６）公共施設の再編と活用 24
Ⅴ　政策の企画・実行にあたって 25
１．みんなの役割(体制) 25
（１）市民の役割 25
（２）地域（集落・自治会等）の役割 25
（３）企業・団体等の役割 25
（４）市の役割 25

（５）国・県の役割 25
（６）金融機関の役割 25
（７）連携する大学等の役割 26
２．施策の進捗管理(PDCA の着実な実行) 26
３．ロードマップ 27
Ⅵ　戦略のポイントごとの施策一覧 30
Ⅶ　＜参考＞奄美大島人口ビジョン 2025　41～42 頁　抜粋 31

Ⅰ　総合戦略策定にあたって

未来を担う子どもたちへの充実した教育環境が提供されている島
様々な世代の人々が起業や社会活動にチャレンジできる島
自然や文化などの奄美の宝（島らしさ）が受け継がれている島
子どもから大人まで誰もが健康的な生活をおくることのできる島
やりがいのある仕事につき，笑顔で子育てができる島

幸せのカタチは人それぞれですが、奄美大島を「しあわせの島」にする、その思いを出発点に奄美市では平成 27 年度（2015 年度）から地方創生の取組をスタートしました。

あれから 10 年の月日が流れ、私たちを取り巻く環境は大きく変化しました。

世界自然遺産に登録された奄美大島の自然環境は世界の宝であることが認められました。この宝を子や孫、もっと先の世代まで守り受け継いでいきましょう。

また、世界中に蔓延した新型コロナウイルス感染症により地域・集落行事が開催できず、これまで何気なくつながっていた地域の人たちとの関りもなくなり、地域コミュニティが希薄化されたほか、観光業など地域を支える産業への打撃など経済や社会にも大きな影響を与えました。

一方で、オンライン会議やテレワークの普及など一気にデジタル化が加速されたほか、地方移住への関心が高まるなど、社会情勢も大きく変化させました。

そのような中、本市をはじめ、全国的に人口減少が進んでおり、人手不足や産業の縮小などが心配されています。人口の減少は、簡単に解決できる問題ではありませんが、この事態を正面から受け止めた上で、人口規模が縮小しても経済成長し、みんなが楽しく、しあわせになれるように行政だけでなく、企業や市民がそれぞれの役割を考え、いっしょに取組んでいきましょう。

「しあわせの島」の実現に向け行政がすべきことや民間の動きを促進していく取組をまとめた新たな３カ年計画が「しあわせの島へ～奄美市『未来づくり』総合戦略 2025」です。

Ⅱ　戦略の位置づけと計画期間

１．戦略の位置づけ

本総合戦略の策定にあたっては、奄美市総合計画『未来の奄美市づくり計画』(以下、「未来計画」という。)で目指す将来像「自然・人・文化が紡ぐ　しあわせの島」を実現するための重点プロジェクトと位置付けます。

また、『奄美群島成長戦略ビジョン 2033』や『奄美群島振興開発計画』、『住用及び笠利地域創生戦略』等とも連動させることで、さらなる地域活性化に繋げます。

併せて、本戦略に基づく取組は、行政がすべきことや民間企業の動きを促進していくほか、市民一人ひとり、企業や団体、奄美市役所が主体的に取り組む内容についての意見交換などをとおして充実を図っていくこととします。

２．計画期間

計画期間は、令和７年度～令和９年度（３カ年）とします。

Ⅲ　政策の方向

１．基本的な考え方

（１）目指す将来像(みんなで実現するなりたい姿)

未来計画では、「将来なりたい姿（将来像）」を、「自然・人・文化が紡ぐ　しあわせの島」としており、本戦略でも引き続き、「しあわせの島」とします。

（２）基本理念

私たちが目指す「自然・人・文化が紡ぐ しあわせの島」実現のためには、様々な課題に対して、奄美市が持つ魅力や特性を発揮しながら、解決に取り組んでいく必要があります。そのためには、市民一人ひとりの行動、企業活動、行政の取組など、奄美市に住む私たちみんなが手を取り合い、協力し合うことがなにより大切です。

未来の奄美市をつくっていくためにみんなが共有すべき考え方を未来計画と同様の３つにまとめます。

①みんなで生活満足度向上を目指します

・現在、奄美市に住んでいるわたしたち市民一人ひとりの生活満足度が向上することを最も重要視しましょう。

・安全安心の基盤となる生活環境や防災体制、子育て支援や学校教育など、奄美市全体として均衡ある環境整備を進めながら、孤立化対策や集落の人口維持など３地区それぞれに特化して取り組むべき課題、地区ごとに持つ特徴や魅力の発揮など、３地区の個性にあわせた取組を話し合い、実行していきましょう。

・国や県、関係町村はもちろんのこと、民間企業や学術機関、団体、出身者をはじめとする関係人口の皆さんなど、多くの関係者との連携・協力も大切にしながら、課題解決に取組みましょう。

②成長の源泉である元気な経済活動を目指します

・奄美市発展の主役は市民であり、企業・事業者の皆さんです。行政は皆さんを支え、より活躍していただく環境を整える役割を担っています。

・市民・企業と行政の対話・コミュニケーションの機会を積極的につくっていきましょう。

③未来を担う次世代へ「しまの誇り」を継承することを目指します

・奄美市の特徴的な文化・伝統は、集落・地域の生活の中にこそあります。改めて「地域のつながり」の大切さを実感している今だからこそ、世代間交流が生まれ、文化・伝統の継承の場となる地域活動の再活性化・再構築を進めましょう。

・世界自然遺産地域として認められた自然環境と、その自然とともに受け継がれてきた環境文化。この世界の宝を守り未来へつなぐ取組や世界自然遺産にふさわしい持続可能なしまづくりに取組んでいきましょう。また、自然環境や環境文化を大切にしながら、それだけにとどまらないたくさんの魅力を、国内のみならず国外にも発信していきましょう。

・子どもたちに「ふるさと奄美市」を誇りに思ってもらうこと。将来を担う子どもたちが、小さなときから高校生となるまで、世代を問わず地域文化にふれるとともに、地域の中で活動する機会をつくり、しまへの愛着を高める取組を推進しましょう。そして、いつか進学や就職で島を離れることになっても、多くの子どもたちが「将来は島に帰ってきたい」という想いが持てるようにしましょう。

・しまの言葉を大切にすることはもちろんですが、わたしたちが受け継いできた特徴ある文化は、その形ばかりでなく、それぞれの背景や意味・心こそ大事との想いを持って、次世代に受け継いでいきましょう。

（３）全体指標

未来計画では、１５年間の長期的な取組の効果を図る指標を定めており、本戦略では３年後の取組の効果を図る指標として同様に定めます。なお、取組の効果は数値化しづらい一人ひとりの思いに関するものと、数値として取組の効果を共有できる２つを設定します。

①市民の生活満足度向上などを確認する指標（数値化できない指標）

市民の「生活満足度の向上」や「誇りの継承」という、数値化しづらい取組については、これまで実施してきた「奄美市幸福度調査アンケート」を、毎年継続的に実施することで、その変遷を確認していきます。

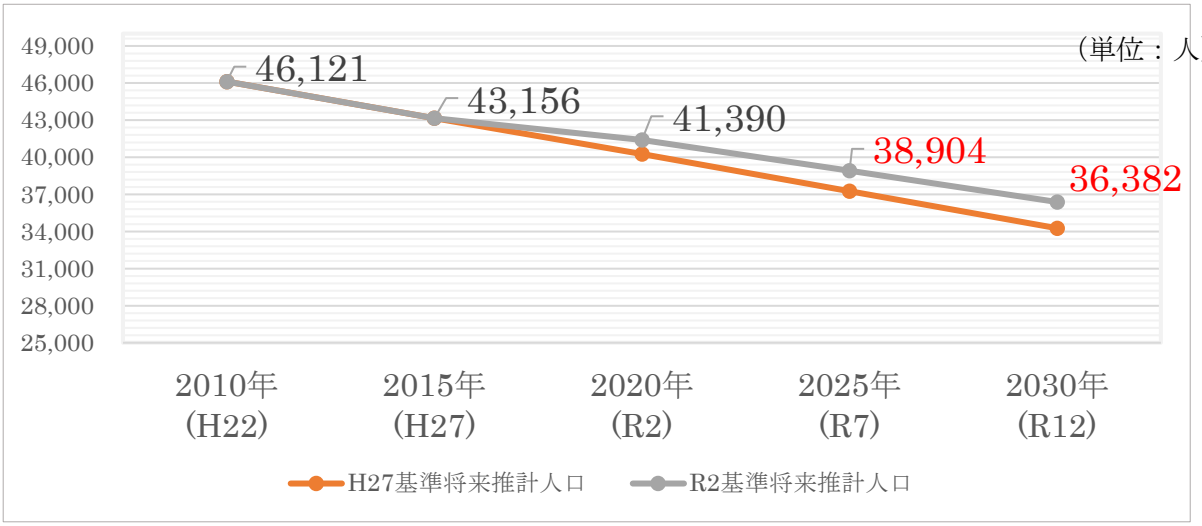
＜生活満足度など数値化しづらい状態を確認する指標＞
奄美市民の幸福度（市民が幸せに暮らしていると実感している状態）

なお、幸福度については目標値の設定は行わず、ありのままの生活実感を確認するも

のとして扱います。

②人口減少対策の効果を確認する指標（数値として確認する指標）

奄美市が抱える最重要課題である「人口減少対策」について、取組の効果を共有する指標として、国立社会保障・人口問題研究所が示す将来推計人口と各年の国勢調査を使用します。



人口減少対策に取り組むことにより、科学的に試算された将来推計人口を上回っていくことは可能であると考えます。そのため、本戦略に基づく様々な取組が、奄美市における重要な課題である「人口減少」に対して、効果があったかどうかの参考とすべく、将来推計人口と国勢調査人口を比較することとします。

＜取組の効果を確認・共有するための指標＞
人口減少が抑制されていることの確認（令和９年までの計画期間中）
令和７年国勢調査時　＝38,904 人を上回っている
＜参考＞
令和 12 年国勢調査時＝36,382 人を上回っている

※ 本数値は令和７年国勢調査を経て、見直しを検討します。

２．戦略の目標

総合戦略の策定にあたっては、未来計画で「人口の減少」が最も重要な課題として位置付けていることや「奄美大島人口ビジョン 2025」の目指すべき取組の方向性を踏まえ、戦略の目標を以下の４つとします。

（１）社会動態をプラスにする！

地域住民や UI ターン者が、本市に帰りたい、住みたいと思えるしまとなるように「就業支援・住まい確保」に取組むとともに、医療や福祉、防災など安心安全に生活するための定住環境の整備にも取組みます。また、地域内経済循環を促進し、地域経済の「稼ぐ力」を高めます。

「奄美大島人口ビジョン」では、「奄美群島成長戦略ビジョン　基本計画・実施計画(前期)」と同様に社会動態をプラスに転じさせることを目標としています。本戦略でも「奄美群島成長戦略ビジョン　基本計画・実施計画(前期)」の目標と同様の考え方とし、計画期間(R７～R９)における奄美市の３年平均増減数を目標とします。

数値目標（KPI）	基準値	目標値
社会動態 (転入－転出)	△132人 （H29～R４年の平均増減数） ※R１年は自衛隊開設ため除く	＋１人 （計画期間３年平均増減数）

データ出典：鹿児島県推計人口移動調査

（２）子育て世代を増やす！

子育て世代が抱える悩みなどをなくすため、個人のニーズに応じた多様な働き方を推進するとともに、遊び場づくりや情報発信など子育て世代に向けたサービスの充実に努めます。また、子育ての”困った”を相談しやすい環境づくりにも取組みます。

「奄美大島人口ビジョン」では、社会動態増のターゲット層を子育て世代(25～49 歳までの男女)としており、本戦略でも同様の考え方とします。各年 133 人増やしていくことで、将来予測される人口を上回っていくことを目標とします。

数値目標（KPI）	基準値（R５）	目標値（R9）
25～49 歳の人口	10,339 人	9,657 人

データ出典：鹿児島県推計人口移動調査

（３）出生数を増やす！

出会いの場の創出や子どもをはぐくむ環境の確保・充実を図り、結婚を望むすべての人が円滑に結婚できる環境を整えるとともに、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりに取組みます。

「奄美大島人口ビジョン」では、出生数の増加目標を設定しており、本戦略でも同様の考え方とします。出生数を増やすことで、将来予測される出生数を上回っていくことを目標とします。

数値目標（KPI）	基準値（R５）	目標値(R９)
出生数	261 人	245 人

データ出典：鹿児島県推計人口移動調査

（４）人口減少に対応できるしまづくり！

人口減少が進む中、住民の生活水準を維持・向上させ、公共サービスの効率化(スマートシュリンク)を図るとともに、公共施設の再編とその活用策についても検討します。また、社会課題解決に向け DX の導入など、デジタル化社会の実現を目指し、人口減少に対応した魅力づくりを行います。

「人口減少に対応できるしまづくり」を目指し、民間と行政で一体となって取組んでいくため、それぞれで目標を設定します。

数値目標（KPI）	基準値（R６）	目標値（R９）
企業におけるデジタル化の取組割合	58%	70%
デジタルを活用した庁内業務削減時間	2,500h	4,800h

データ出典:奄美商工会議所会員実態調査、奄美市が把握する実績値

戦略の４つの目標について具体的な施策で対応する項目をアイコンを用いて表します。

社会動態をプラスにする！

子育て世代を増やす！

出生数を増やす！

人口減少に対応できるしまづくり！

３．戦略の全体像

基本理念Ⅰ「みんなで生活満足度向上を目指します」

- 取組の具体的方向１　　子育ての“困った”をなくそう
- 取組の具体的方向２　　健康・医療の“不安”をなくそう
- 取組の具体的方向３　　身近な生活の“問題”をなくそう

基本理念Ⅱ「成長の源泉である元気な経済活動を目指します」

- 取組の具体的方向４　　しまで働く人を増やそう
- 取組の具体的方向５　　しまの「しごと」を応援しよう

基本理念Ⅲ「未来を担う次世代へ『しまの誇り』を継承することを目指します」

- 取組の具体的方向６　　しまで学ぼう　しまに学ぼう
- 取組の具体的方向７　　世界の宝にふさわしいしまにしよう
- 取組の具体的方向８　　みんなで「しまさばくり」をしよう

Ⅳ　施策の方向

Ⅰ．基本理念Ⅰ「みんなで生活満足度向上を目指します」

（Ⅰ）基本的方向

市民一人ひとりの生活満足度を向上させ、地域住民や UI ターン者が住みたい、住み続けたいと思えるしまづくりを目指します。

〇子育て世代が抱える悩みなどを解消し、子育てしやすい環境の整備に取組みます。

〇医療や福祉、防災など市民が安心に生活するための定住環境の整備に取組みます。

〇空き家対策などの推進による住まいの確保や「しまに住みたい」という想いをもつ移住者への移住支援に取組みます。

（２）具体的な施策と数値目標

①子育ての“困った”をなくそう

人との“つながり”が本市の魅力であり、子育てのしやすさにつながります。行政はもとより、家庭・学校・地域住民・子育てを支える関係者間のつながりの中で、子どもがいきいきと健やかに育つ、みんなにやさしい”子育てのしま“を目指します。子育てなどの新たな価値観に対応するため、子どもと保護者が親しむ”遊び・学び“の環境の充実にも取組みます。

＜具体的な施策＞

（Ⅰ―Ⅰ）地域における子育て支援の充実

子育ては、子どものいる家庭だけで完結できません。地域の様々な場所での人とのつながりの中で、子育ての不安や負担感は大きく軽減し、前向きな気持ちで子育てをすることができます。

保育所、幼稚園、認定子ども園など、関係機関との連携を強化し、保育環境の改善を図りながら、質の高い教育，保育事業を提供します。

また、相談体制の整備や効果的な情報発信、子育て費用の負担軽減など、子育て支援サービスの充実を図るとともに、地域全体で子どもとその家族を支える体制づくりを目指します。

数値目標（KPI）	基準値（R5）	目標値（R9）
奄美市における子育て環境や子育て支援への満足度	34.7%	52%

データ出典：子育てに関するアンケート調査目標値

目標設定根拠：担当部署で設定

（１―２）親子の心とからだの健やかな成長を支える取組の推進

保護者があたたかな気持ちで子どもとたくさん触れ合うことで、子どもの五感を刺激し、気持ちの安定や心身の成長を促進します。

親になる準備期間の支援をはじめ、産前産後ケアの充実など、親子の健康づくりは妊娠期に始まり、出産、乳幼児期を経て、学齢期、青年期に至るまで切れ目なく続きます。ライフステージを通して、はぐくみ育ち見守り隊の皆さまとともに地域の中で子育てを見守り、人とのつながりの中で、安心して子が育ち、子育てができる体制づくりを目指します。

数値目標（KPI）	基準値(R6)	目標値(R９)
この地域で、今後も子育てをしていきたい人の割合	92.8%	95%

データ出典：３歳児健診　健やか親子 21 アンケート

目標値設定根拠：「健やか親子 21（国）」第２次計画の最終目標

（１―３）支援を必要とする子どもや家庭を支える取組の推進

複雑な家庭環境、虐待などの家族関係、病気や障害など、様々な状況によって、子どもが不利益を被ってはいけません。行政、家庭、地域、子どもや子育てを支える関係者がつながりを強化し、また人と人とのつながりの中で、困難な状況にある家庭が、必要な支援につながる体制づくりが求められています。

ひとり親や障害児への支援はもとより、児童虐待の防止などの取組を推進しながら、それぞれの状況に応じた保護と支援を適切に実施することにより、子どもや子育て家庭が困難な状況から抜け出せる体制づくりを目指します。

数値目標（KPI）	基準値（R5）	目標値（R9）
公的機関に子育てをする上で気軽に相談できる人の割合	3.3%	10%

データ出典：子育てに関するアンケート調査

目標値設定根拠：担当部署で設定

（１―４）みんなにやさしい　“子育てのしま”づくり

子どもや子育て家庭を含めた本市で暮らすみんなが、安心して暮らすことのできるまちづくりが重要です。良質な居住環境の確保をはじめ、子どもたちが交通事故や犯罪に巻き込まれることの防止、自然災害時の安全確保など、人とのつながりの中で、みんなが安全安心に暮らすことのできる環境を充実し、みんなにやさしい”子育てのしま“を

推進します。

また、行政だけでなく、保育所、幼稚園、認定子ども園、学校をはじめ、地域の子育て機関や事業所など、関係者間の連携により、地域全体で子どもと保護者がともに親しむ“遊び・学び”の環境づくりに取組みます。

数値目標（KPI）	基準値（R5）	目標値（R9）
奄美市における子育て環境や子育て支援への満足度	34.7%	52%

データ出典：子育てに関するアンケート調査

目標値設定根拠：担当部署で設定

②健康・医療の“不安”をなくそう

元気で長生きできるように健康寿命の延伸を図るとともに、すべての市民が個人として尊重され、希望や生きがいを持ちながらその人らしく安心して暮らせる定住環境を整備します。

＜具体的な施策＞

（２―１）市民主体の健康づくりの推進

健康づくりの主役は市民です。市民一人ひとりが自分の健康づくりに主体的に取組み、健やかな毎日を過ごせるよう、市の取組に加え、家庭や地域、学校、関係機関など社会全体が、個人の健康を支え守るための環境整備に取り組むことが求められます。各関係機関が相互に連携しつながりを強化しながら、個人の健康づくりを一体的に推進します。

また、生きることの包括的な支援として自殺対策を位置づけ、個人においても地域においても「生きることの阻害要因」を減らし、「生きることの促進要因」を増やす取組を推進します。

数値目標（KPI）	基準値（R２）	目標値（R12）
日常生活動作が自立している平均自立期間	平均自立期間 男性 77.4 歳、女性 83.6 歳 平均寿命 男性 79.2 歳、女性 87.4 歳	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加

データ出典：あまみ SDGs アクションプラン

（２―２）健康を支え合う地域づくり

ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が増えていくことを踏まえ、地域力の向

上を目指し、地域で支え合う体制づくりが求められています。地域において取組んでいる住民主体の健康教室・通いの場を、世代を超えて支え、参加することで、地域住民がふれあうきっかけとなり、健康づくりをとおして地域活動の活性化につながることも目指します。

数値目標（KPI）	基準値（R５）	目標値（R９）
ふだんから家族や友人と付き合いがある人の割合(75 歳以上の高齢者)	男性：96.0% 女性：98.8%	男性：97.0% 女性：99.0%

データ出典：奄美市が把握する実績値

目標値設定根拠：担当部署で設定

（２―３）医療の確保

市民が安心して暮らしていく上で耳鼻科、産婦人科、小児科など身近な医療機関が少なくなってきたことに日常生活への不安を感じる方もいます。そのような不安を解消するため、県や関係団体と一緒に医療の確保に向けて努めます。

数値目標（KPI）	基準値(R６)	目標値(R９)
一般診療所数	34 施設	34 施設

データ出典：奄美市が把握する実績

目標値設定根拠：担当部署で設定

③身近な生活の“問題”をなくそう

新居を求める地域住民や新たに「奄美市に住みたい」と願う移住者の想いを実現するため、空き家対策の推進など「住まいの確保」の充実に努めます。また、安心・安全に暮らせる災害に強いまちづくりを目指します。

＜具体的な施策＞

（３―１）定住促進による活気のあるしまづくり

これまでの景観にも配慮した空き家の活用促進及び危険空き家の除去促進に向けた相談・実施体制を一体的に行い、地域住民の生活環境の保全及び定住促進に向けた総合的な住環境を整備します。また、各町内会・自治会等との連携により空き家や集落ライフ情報の公開にも努めます

併せて、移住・定住住宅購入費補助や移住・定住住宅リフォーム等助成金など住まい確保の支援に努めます。

数値目標（KPI）	基準値（R５）	目標値（R９）
本市施策を通じた移住者数	222 名(R2 年度末からの累計)	422 名(R9 年度末累計)

データ出典：奄美市が把握する実績

目標値設定根拠：担当部署で設定

（３―２）暮らしを守る防災力の向上

自主防災組織が実施する避難訓練などの活動支援、出前講座による啓発、関係機関を含めた全市民参加型の総合防災訓練を実施するなど、官民一体となった防災・減災の仕組みづくりに取組みます。また、社会基盤の整備・施設の耐震化のほか防災拠点の整備等に取組み、市民が安全安心に暮らせる災害に強いしまづくりを進めます。

数値目標（KPI）	基準値（R６）	目標値（R９年）
自主防災組織数	81 団体	84 団体

データ出典：奄美市が把握する実績値

目標値設定根拠：担当部署で設定

（３―３）持続可能な地域公共交通体系の構築

近年、人口減少等の影響で公共交通の利用者数が減少するとともに、運転手等の担い手も不足し、公共交通を取りまく環境は一層厳しいものとなっています。そのような中でも、様々な分野で地域交通は重要な役割を担っており、地域交通の維持、確保に取り組むことが求められます。

地域公共交通が有する課題を踏まえ、公共交通が果たすべき役割を明確にし、路線の再編やデマンド交通の導入等、目標を達成するための事業について、関係各所との調整を行いながら、持続可能な地域公共交通体系の構築に向けて努めます。

数値目標（KPI）	基準値	目標値
調整中		

データ出典：奄美大島地域公共交通計画

２．基本理念Ⅱ「成長の源泉である元気な経済活動を目指します」

（１）基本的方向

観光産業の振興をはじめとする各分野への支援を充実させることで、企業の活動が活発になり、市民の収入が増え、地域経済が好循環していくしまを目指します。

〇地域内経済循環を促進し、地域内の「稼ぐ力」を高めることで給与環境・就業環境の向上に努めます。

〇各分野での人材不足を補うため、効率化を見据えたデジタル人材の育成を推進するとともに、デジタル技術の導入による社会課題解決に取組みます。

〇働く方の置かれた個々の事情に応じ、多様な働き方を選択できるよう社会の実現に向けて行政と民間が協力して取組みます。

〇住民の生活水準を維持・向上させ、公共サービスの効率化を図ります。

（２）具体的な施策と数値目標

④しまで働く人を増やそう

給与環境の改善・向上のために、地域外から外貨を稼ぐ仕組みづくりや奄美大島に来てもらうための情報発信の充実など、経済活動の活発化に取組むことで「しまで働きたい人」を増やすことを目指します。また、個人のニーズに応じた多様な働き方が選択できるよう、行政と民間で連携を図ります。

＜具体的な施策＞

（４―１）民間・行政が一体となり「働き手確保」に向けた「移・職・住」※の総合対策の推進　（※移住・職の確保・住居の確保）

市内事業所の人材確保や就業環境向上を図るため、給与住宅等の整備や確保に向けた取組や空き家活用を含めた住宅確保や資格取得へ支援を行うとともに、雇用する側と雇用される側が相互に幸せな環境となるため、「働きやすい職場づくり」に取り組む事業者を応援します。

また、人材誘致機会創出のため、求人活動を積極的に取組む事業者を支援します。

併せて、中高生向けへの職場体験の支援として、希望者と企業団体をマッチングし、若者の地元への定着や就労意欲向上を図ります。

数値目標（KPI）	基準値（R３）	目標値
従業者数	15,846 人	14,963 人

データ出典：『経済センサス』

目標設定根拠: 担当部署で設定

（４―２）地域外から外貨を稼ぐ仕組みづくり

他自治体等と連携し、本場奄美大島紬や奄美黒糖焼酎などの特産品はもとより、島の素材を活かした加工製品の開発や高付加価値商品の開発を促進します。また、誰もが訪れたくなる島、いつまでも暮らしたい島を目指し、観光が地域の生活に好影響を与えるよう配慮しつつ、受入環境整備による来訪者の満足度の向上、様々な旅行形態の提案による滞在日数の増加、魅力的なサービスや商品を生み出すことによる観光消費額の増加、住民との交流促進や継続的な情報発信によるリピーターの獲得を図ります。

数値目標（KPI）	基準値（R５）	目標値（R９）
観光リピーター率	41.5%	44.9%

データ出典：『観光満足度調査』((一社)あまみ大島観光物産観光連盟)

目標値設定根拠：担当部署で設定

（４―３）多様な働き方の推進

深刻化する人材不足解消に向けて、在宅ワークやワーケーションの推進、フリーランスへの支援等の地元の働き方改革を行うことで、仕事の自由度を高め、個人のニーズに応じた多様な働き方モデルを創出します。また、短時間ワークや複業※制度の研究にも努めます。(※複数の仕事を掛け持ちすることを「副業」といいますが、今回使用している「複業」は複数の仕事に 「正・副」の区別がなく、すべて本業として平行する働き方のこととされています。)

数値目標（KPI）	基準値（R２～R５）	目標値（R７～R９）
フリーランス数		

調整中

データ出典：フリーランスが最も働きやすい島化計画（第３ステージ）

（４―４）しまの情報発信の充実

「しまに帰りたいという方々」や「しまで暮らしたいという方々」のために就業環境改善など各業界の取組について情報発信に努めるとともに、島外での求人活動を促進します。

数値目標（KPI）	基準値（R５）	目標値（R９）
島外の人材確保に向け求人活動を行う企業数(年間)	10 社	10 社

データ出典：奄美市が把握する実績値

目標値設定根拠：担当部署で設定

⑤しまの「しごと」を応援しよう

地域内経済循環を促進し、地域内の「稼ぐ力」を高めるため、様々な企業支援に取組みます。また、若者がチャレンジや新しいサービスづくりに向けた起業などを受け入れできる環境整備に取組みます。

＜具体的な施策＞

（５―１）「ありのままのしまの魅力」を引きだす観光関連産業の進化

奄美大島の価値を理解した観光客が多く訪れるよう、奄美大島の情報発信や訪れやすい環境整備を推進するとともに、世界自然遺産区域の保全活用が持続される取組や集落内の資源を活用した自然体の島暮らし体験型観光など豊かな自然環境、文化や歴史など、地域資源を有効かつ持続的に活かしていく取組を推進します。

また、シーズンを問わず、インバウンドも含めた一定数の旅行者が訪れる島を目指し、奄美の貴重な自然・歴史・文化等の地域固有の資源を保護するとともに活用に努めます。

まずは、宇宿貝塚史跡公園を観光拠点施設として再整備を図り、周辺環境や地域資源、集落が一体となり、経済、社会、環境に好循環が波及するモデル的取組を推進します。

併せて、体験型観光として魅力を伝えるエコツアーガイドの育成・確保など奄美の世界自然遺産登録による観光客増対応し、将来にわたって素晴らしい資源を残していくためエコツーリズムを推進し、観光産業の収益向上や従業者の雇用環境の改善を進め産業としての魅力を高められるように努めます。

数値目標（KPI）	基準値（R5）	目標値（R８）
観光満足度	48.5%	68.7%

データ出典：奄美大島中長期観光戦略　(目標値は新たな計画策定時に読み換える)

（５―２）「かせげる農林水産業」実現に向けた取組の推進

亜熱帯海洋性気候の温暖多雨な自然条件を活かした、サトウキビや畜産物、園芸作物（たんかん・パッションフルーツ・スモモ・マンゴー・野菜等）の生産性を向上させ、効率的かつ安定的な農業経営を営む者（認定農業者）の安定的な確保及び新たに農業経営を営もうとする青年等（認定新規就農者）の確保・育成を図るりつつ、亜熱帯果樹のブランド化を目指します。特に、国内最大の栽培面積を誇っているタンカンは、安定した品質・生産量が確保できず、いまだ産地としての知名度が低いことから、「かごしまブランド認定」を目標とした新たな取組を推進します。

また、地場産農林水産物の地産地消活動や販売支援や加工品開発を支援し、新たな特産品の創出、販路拡大に努めます。

畜産については、子牛の商品性や粗飼料の自給率向上を推進するとともに、スマート農業技術を活用した、安心安全かつ効率的な農業を展開し、魅力ある産業の確立を図ります。

数値目標（KPI）	基準値(R5)	目標値(R9)
認定農業者数	76 名	80 名
青年等認定新規就農者数	10 名	10 名

データ出典：奄美市農林水産業振興計画

（５―３）チャレンジできる環境整備

一人ひとりの個性が活き、いろいろな働き方を実現するため、起業や事業拡大・新商品開発などを行おうとする企業、若者へのチャレンジ支援や、さらにはチャレンジする人材を育成する環境の整備・充実に金融機関と一体となって取組みます。

数値目標（KPI）	基準値（R２）	目標値(R８)
新規創業件数	14 件	20 件

データ出典：創業支援等事業計画(目標値は新たな計画策定時に読み換える)

（５―４）デジタルを活用した社会課題解決

農業などの担い手の高齢化や多くの業種における就業者の減少に対応するため、各業種におけるデジタル人材の育成を推進するとともに、業務の効率化、VR を活用した観光、オンデマンド交通を利用した公共交通の利便性向上、事務作業や防災、物流を補助するための AI や自動化技術の導入など、多様な場面でデジタル技術の活用を目指し、しまにおける様々な課題解決を図ります。

数値目標（KPI）	基準値（R６）	目標値（R９）
企業におけるデジタル化の取組割合	58%	70%

データ出典：奄美商工会議所会員実態調査

目標値設定根拠：担当部署で設定

（５―５）誰もが情報を暮らしに活かせるしまづくり

しまづくりを推進し、下支えする自治体業務におけるデジタル分野の改革を進めます。また、行政が有するデータ活用による地域課題解決や、マイナンバーカード普及・利用促進、デジタル格差の解消など、行政サービスの効率化及び高度化を進めます。

数値目標（KPI）	基準値（R６）	目標値（R９）
LoGo フォーム（オンライン申請）受付件数	25,970 件	40,000 件

データ出典：奄美市が把握する実績値

目標値設定根拠：担当部署で設定

３．基本理念Ⅲ　「未来を担う次世代へ『しまの誇り』を継承することを目指します」

（１）基本的方向

しまの歴史や文化、貴重な自然を次世代に受け継いでいくため、学習機会の提供や継承の場となる地域活動の再活性化・再構築に取組み、将来は「しまに帰ってきたい」と思う子どもたちが増えていくしまを目指します。

〇子どもたちが歴史や文化を学ぶ機会を創出し、しまへの愛着を高める取組を推進します。

〇世界自然遺産にふさわしいしまになるように自然を守る制度や仕組みづくりに取組みます。

〇市民と行政が協働して、集落や地域の活性化に取組みます。

〇公共施設の再編とその有効的な活用策について検討します。

（２）具体的な施策と数値目標

⑥しまで学ぼう　しまに学ぼう

しまの恵まれた自然や教育的風土を学び、自分が生まれ、育った郷土のよさを実感し、郷土を愛し、郷土の伝統・文化に誇りをもつ子どもの育成に取組みます。

＜具体的な施策＞

（６―１）未来を切り拓くための能力を伸ばし、社会で自立する力を育む教育の推進

子どもたちが、変化の激しいこれからの社会を生き抜き、未来を切り拓くためには、基礎・基本を確実に身に付けるとともに、自ら学び、考え、主体的に判断、行動し、よりよく問題を解決する能力を育む教育を推進します。

また、伝統や文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養うことや望ましい勤労観・職業観が身につく教育を推進します。

併せて、奨学金制度など、学びのセーフティネットの充実を推進します。

数値目標（KPI）	基準値(小：R1、中：R2)	目標値（R7）
学力の定着・向上が図られた学校数及び割合（「鹿児島学習定着度調査」県平均比との比較）	小学校：13校（62%） 中学校：９校（75%）	小学校：15校（71%） 中学校：10校（83%）

データ出典：奄美市第２期教育振興基本計画(目標値は新たな計画策定時に読み換える)

（６―２）信頼され、地域とともにある学校づくりの推進

学校において、それぞれの教育の目標が達成されるためには、学校、教職員が役割を十分に果たし、「信頼される」学校づくりを進める必要があります。

また、地方創生の観点から、今後においても、学校と地域が相互にかかわり合い、地域を活性化していくことが不可欠であるとの考えから、「地域とともにある学校」づくりを推進します。

市内の高等学校においては、中学校及び専門学校、地域や産業界、行政とコンソーシアムを形成し、高等学校の魅力向上と合わせ地域の魅力向上に努めます。

数値目標（KPI）	基準値	目標値
地域人材を活用した体験活動を実施した学校の割合	―	100%

データ出典：大島地区教育推進プラン達成状況調査

目標値設定根拠：担当部署で設定

（６―３）地域全体で子どもを守り育てる環境づくりの推進

教育の振興には、地域が担う役割は大きいものがあります。地域の方々との触れ合いを大切にしながら郷土のことを学び、自然や文化、歴史を誇りに思い、いつまでも守り続けたいと思う気持ちを持つ子どもたちを育成するため、今後も、地域において子どもたちを守り育てるための取組を推進します。

数値目標（KPI）	基準値（R2）	目標値（R7）
奄美の良さを実感している児童生徒の割合（%）	小６：95% 中３：94%	小６：100% 中３：100%

データ出典：奄美市第２期教育振興基本計画(目標値は新たな計画策定時に読み換える)

（６―４）生涯を通して学び活躍できる環境づくりとスポーツ・文化の振興

子どもから大人まで全ての市民が、生涯を通じて、あらゆる機会にあらゆる場所で学ぶことができ、その成果を適切に生かし活躍でき、豊かな人生を送ることができる環境づくりを推進します。

また、郷土の伝統文化や文化財を守り育て、様々な芸術に親しむことで、ふるさとの理解や豊かな感性を育てる取組やその場所を確保する取組を推進します。

併せて、スポーツに親しむことができる環境づくりを推進し、心身両面にわたる健康増進を図るとともに、地域におけるスポーツ活動の振興を通じて、子どもたちが様々な大会で力を発揮できるよう必要な支援を行います。

数値目標（KPI）	基準値（R1）	目標値（R7）
生涯学習講座受講者数（人）	2,424 人	3,500 人

データ出典：奄美市第２期教育振興基本計画(目標値は新たな計画策定時に読み換える)

⑦世界の宝にふさわしいしまにしよう

奄美大島にしかいない希少な動植物を未来に引き継いでいくために、生物多様性の保全や奄美らしい脱炭素の取組など持続可能なしまづくりを目指します。

＜具体的な施策＞

（７―１）世界の宝「生物多様性」を守り未来へつなぐ

奄美大島の自然をよりよい状態で未来に継承していくために、希少種とその生息空間含めた、奄美の自然全体を保全するための取組を推進します。

また、人と自然が共生していける社会の仕組作りと、その取組を主体的に進めていく人材の育成などに取組むことで、奄美大島の生物多様性を保全して未来に継承していくともともに、奄美大島の歴史や文化と、新たな技術や発想を活かし、生物多様性がもたらしてくれる恩恵を持続的に享受できる社会を目指します。

数値目標（KPI）	基準値（R５）	目標値（R10）
アマミノクロウサギのロードキル（轢死）発生件数【奄美大島】	147 件	73 件

データ出典：奄美群島成長戦略ビジョン 2033 基本計画・実施計画(前期)

（７―２）世界自然遺産にふさわしい　持続可能なしまづくり

環境美化活動に対する町内会、自治会、集落への助成及び個人や企業の脱炭素への取組を支援するほか、世界自然遺産の効果を最大限に活かすため、官民連携して取組みます。また、地域循環共生圏の構築に向けた、廃プラスチック対策などの環境保全と資源循環による産業への展開に取組むほか、国、県や関係団体と連携して、自然の適正利用のルールづくりに取組みます。

数値目標（KPI）	基準値（H26）	目標値（R９）
ごみの再資源化率	6.7%	9.0%

※奄美市一般廃棄物処理基本計画

（７―３）世界自然遺産についての広報・PR

世界自然遺産に登録された奄美大島の自然環境は世界の宝です。自然体験機会イ

ベントや子ども世界自然遺産講座、巡回展など島内外に世界自然遺産の魅力を広報・PRする取組を推進します。

数値目標（KPI）	基準値（R５）	目標値（R９）
世界自然遺産に関する講座等の開催数	41 回	45 回

データ出典：奄美市が把握する実績値

目標値設定根拠：担当部署で設定

⑧みんなで「しまさばくり」をしよう

地域住民が「地域活動は楽しい！」と思うような地域をつくり、集落の維持・活性化を目指します。また、民間と行政がお互いを対等なパートナーとして、率直な話し合いをできる関係の構築にも取組みます。

＜具体的な施策＞

（８―１）集落や地域活動の活性化による地域づくり

本市を構成する社会の最小単位は集落や町内会・自治会であり、その集落や町内会などが集まり地域となり、地域が集まり、しまを形成しています。集落・地域の元気のため、互いに知恵を出し、汗をかき、手を取り合った地域づくりを推進します。

そのために、公共施設の開放による集う場所の提供などこれまで島で受け継がれてきたみんながつながる場の創出や八月踊りや島唄など集落の伝統行事の保存活動を推進するほか、地域提案型事業により地域のリーダー人材育成も含めた、住民主体の課題解決や地域活性化の取組を推進します。

また、各郷友会の本土在住出身者の皆さまとの連携やふるさと納税を活用し寄附をいただく方々など新たな関係人口の創出にも努めます。

数値目標（KPI）	基準値（R6）	目標値（R９）
町内会・自治会の設置数	109 団体	110 団体

データ出典：奄美市が把握する実績値

目標値設定根拠：担当部署で設定

（８―２）マルチステークホルダー・パートナーシップによる課題解決に向けた体制構築：

持続可能な未来に向け、一人ひとりが SDGs を「自分ごと」として捉え、多様な主体によるオール奄美での取組を目指します。

そこで、世代・分野・組織等を超えた多様なステークホルダーの連携による「奄美市 SDGs 推進プラットフォーム」、「奄美市 PPP プラットフォーム」、「高校みらいコンソーシアム」を活用し、対話を通じた具体的取組を促進します

数値目標（KPI）	基準値（R5）	目標値（R12）
奄美市 SDGｓ推進プラットフォーム会員数	75 件	100 件

データ出典：あまみ SDGｓアクションプラン

（８―３）男女共同参画社会の形成の促進

ジェンダー平等の取組みの普及・啓発を図るため、男女共同参画の視点に立った地域コミュニティの形成に向けた基盤づくりや、多様な働き方のニーズに対応し、女性の就労を促す環境の整備に取組むとともに、各分野における女性の参画の拡大を図る取組を促進します。

数値目標（KPI）	基準値（R2）	目標値（R14）
「社会通念・慣習・しきたりなど」で男女平等であると感じている割合	14.4%	20%

データ出典：第２次奄美市男女共同参画基本計画

（８―４）大学等との連携による関係人口の創出や「知」の還元

包括連携協定を締結している鹿児島大学及び鹿児島女子短期大学などの大学等と連携し、島内における研究活動の活発化により多様な関係人口を創出するとともに、各大学の研究などにより得られた「知」を地元に還元する仕組みづくりを進めます。

また、奄美看護福祉専門学校に対しては、学校の魅力発信を強化することで、島内、島外、県外からの学生や社会人学生の確保に向けて取組みます。

数値目標（KPI）	基準値（R5）	目標値（R9）
包括連携協定を締結している大学等との連携した取組件数	11 件	15 件

データ出典：奄美市が把握する実績値

目標設定根拠：担当部署で設定

（８－５）奄美大島共同キャンパスの具体化

島内で研究活動を行う大学との連携により、多様な関係人口の創出と地域人材の育成・育成・確保を図るため、「奄美大島共同キャンパス」の具体化に５市町村が連携して取組みます。

数値目標（KPI）	基準値（R5）	目標値（R9）
ゼミ合宿の延べ宿泊者数	39 人泊	75 人泊

データ出典：奄美市が把握する実績値

目標値設定根拠：担当部署で設定

（８―６）公共施設の再編と活用

必要な施設の整備・充実を図る一方で、公共施設等総合計画で掲げている「減らす、増やさない」、「長く使う」、「無駄を省く」の３つの基本方針に基づいて、将来の負担を軽減･平準化していくために老朽化や活用されていない公共施設を再編し、新たな活用方法についても検討します。

数値目標（KPI）	基準値（H27）	目標値(R７)
施設の保有面積	375,660 ㎡	356,877 ㎡

※奄美市が把握する実績値(目標値は新たな計画策定時に読み換える)

Ⅴ　政策の企画・実行にあたって

１．みんなの役割(体制)

市民一人ひとりが「しあわせの島」の担い手として自分の役割を理解し、役割と目標に基づいて自分から動き出すことから「しあわせの島」の実現に向けた第一歩がはじまります。

（１）市民の役割

・市民一人ひとりが身近な誰かをしあわせにするために努力する
・地域がよくなるために自分ができることから実践する

（２）地域（集落・自治会等）の役割

・住民と住民をつなげる
・住民に活躍の場を提供する
・子どもたちを育む地域環境をつくる

（３）企業・団体等の役割

・稼ぐ（生産性を向上させる）ための努力をする
・収益を従業者の所得に反映する
・従業者が働きやすい環境をつくる
・子育てしやすい労働環境をつくる
・地域がよくなるために企業ができることから実践する

（４）市の役割

・市民や集落、企業等の活動を後押しする
・がんばっている人をつなげる
・業務改善（BPR の推進）及び市民サービスの向上

（５）国・県の役割

・地域の新しい取組を後押しするため、制度改正等により支援する

（６）金融機関の役割

・民間企業等の「稼ぐ力」の向上を推進するため、創業・事業拡大に対し積極的に支援する
・産業を支える人材の確保や産業の付加価値の向上を図るため、副業・兼業人材とのマッチングを支援する

・新サービスや新商品の開発を促進するため、民間企業等のチャレンジを支援する

（7）連携する大学等の役割

・地域の人材育成に積極的に関わる
・調査・研究結果を地域の企業と協働して経済活動につなげる
・地域の資源（自然・文化・歴史・農林水産物 等）についての調査・研究を行う

2．施策の進捗管理(PDCA の着実な実行)

本市においては、民間有識者等で構成する奄美市総合戦略会議を設置し、毎年度の数値目標の達成状況を管理するとともに、達成状況や社会情勢の変化に柔軟に対応した事業を展開します。

３．ロードマップ

基本目標	基本的方向	みんなの取組テーマ	～R６	R７	R８	R９
			現状	離陸期	加速期	充実（＋検証）期
基本目標Ⅰ「みんなで生活満足度向上を目指します」	①子育ての“困った”をなくそう	(1)地域における子育て支援の充実を目指します	子育て環境に関する利用者側・施設側双方から様々な問題意識→円卓会議（→一部事業化）	子育て環境の改善（事業化）	住用・笠利認定こども園開園	市域全体の子育て環境の充実
		(2)親子の心とからだの健やかな成長を支えます	産前産後ケアなど地域の中での子育てへの見守りと支援に取り組んでいる。	子ども・子育て支援事業計画		
		(3)支援を必要とする子どもや家庭への支援に取り組みます	「子ども家庭生活実態調査」などに基づき必要な支援に取り組んでいる。	健康あまみ21（第2次）	こども家庭センターの設立	
		(4)みんなにやさしい　“子育てのしま”を推進します	住居や子どもの遊び場など生活環境に様々な課題がある。	みんなが安全安心に暮らせる環境整備 子育て世帯への支援の充実		
	②健康・医療の“不安”をなくそう	(1)市民主体の健康づくりの推進	生活様式の変化などに伴い健康寿命が低下するなどの課題がある。	健康あまみ21（第2次） 第2期奄美市自殺対策計画		
		(2)健康を支え合う地域づくり	生活様式の変化などに伴い健康寿命が低下するなどの課題がある。	住民主体の健康教室・通いの場の充実 高齢者を支える地域力の向上		
		(3)医療の確保	医療機関の減少に不安を感じる住民がいるなどの課題がある。	医療懇話会の開催／アンケート実施	医療懇話会の開催／必要な施策の実施	
	③身近な生活の“問題”をなくそう	(1)定住促進による活気のあるしまづくり	人口減少の傾向を緩めるためにはIUターン者など定住人口を増やす必要があり各施策が実施されている。	定住者向け住宅施策の強化 空き家等対策計画 情報発信の強化	同計画（次期）	
		(2)暮らしを守る防災力の向上	基盤となる公共インフラの整備が進められているが、全国的な災害事例などからきめ細かい備えが求められており人口減少や高齢化等もあり防災組織等に課題が生じている。	地域防災計画 地区防災計画の作成（要支援者把握） 定期的な防災訓練の実施 まちづくり（都市再生整備計画／住生活基本計画／その他公共インフラ関係事業計画		
		(3)持続可能な地域公共交通体系の構築	運転手不足などの課題がある中、路線改編、実証運行、地域公共交通計画策定などに取り組んでいる。	実証運行（自家用有償運行／デマンド交通） 奄美大島地域公共交通計画		

基本目標	基本的方向	みんなの取組テーマ	～R６	R7	R8	R9
			現状	離陸期	加速期	充実（＋検証）期
基本目標Ⅱ「成長の源泉である元気な経済活動を目指します」	④しまで働く人を増やそう	(1)民間・行政が一体となり「働き手確保」に向けた「移・職・住」の総合対策の推進	人材不足が深刻化しており新たな働き手の確保が急務である。	「移・職・住」総合対策事業の推進 「働きやすい職場づくり」への支援 職場と就労希望者とのマッチング（若者の地元定着／潜在労働力の掘り起こし）		
		(2)地域外から外貨を稼ぐ仕組みづくり	地域の知名度が上がる一方でリピーター率や特産品の販売状況を含む観光消費額などに課題がある。	奄美大島中長期観光戦略 航空路の維持・拡充に向けた取組 第2期本場奄美大島紬産地再生計画	同計画（次期） 同計画（次期）	
		(3)多様な働き方の推進	一部では新たな働き方が見られるが働き方改革と潜在的労働力の掘り起こしとしては取り組みの余地がある。	フリーランスが最も働きやすい島化計画（次期） 短時間ワークや副業制度の研究		
		(4)しまの魅力発信の充実	地域の知名度が上がる一方で、定住促進につながる情報発信については課題がある。	本市及び民間サイト等による情報発信の強化 奄美大島雇用創造協議会事業構想書	同計画（次期）	
	⑤しまの「しごと」を応援しよう	(1)「ありのままのしまの魅力」を引きだす観光関連産業の進化	地域の生活文化や自然環境との共存を図りつつ、観光産業の可能性を広げる余地がある。	エコツーリズムの推進 宇宿貝塚史跡公園リニューアル		
		(2)「かせげる農林水産業」実現に向けた取組の推進	名瀬・住用地区は果樹栽培のブランド化などに、笠利地区はサトウキビ栽培の単収と畜産の飼料コストや子牛価格に、それぞれ課題を抱えている。	亜熱帯果樹（主にタンカン）のブランド化 農業振興地域整備計画に基づく基盤整備 子牛の商品性向上及び資料自給率向上など 林業及び水産業の振興		
		(3)チャレンジできる環境整備	自ら仕事を作り出す起業も広がりつつある中で後押しする環境整備が求められている。	創業支援等事業計画に基づく施策 金融機関と連携した支援		
		(4)デジタルを活用した社会課題解決 (5)誰もが情報を暮らしに活かせるしまづくり	光ファイバーなど基盤整備は進んでいるが、人材育成と地域課題解決への活用は今後の課題である。	第二次地域情報化計画 人材育成　サービス向上 産業振興　基盤整備	地域情報化計画（次期）	

基本目標	基本的方向	みんなの取組テーマ	～R６	R７	R８	R９
			現状	離陸期	加速期	充実（＋検証）期
基本目標Ⅲ「未来を担う次世代へ『しまの誇り』を継承することを目指します」	⑥しまで学ぼう　しまに学ぼう	(1)未来を切り拓くための能力を伸ばし、社会で自立する力を育む教育の推進	基礎学力の向上に加え、問題解決能力や郷土愛を備えた人材育成が課題である。	教育大綱／第2期教育振興基本計画	同計画（次期）	
				学びのセーフティネット（奨学金制度など）の充実		
		(2)信頼され、地域とともにある学校づくりの推進	信頼される学校、地域とともにある学校づくりが課題である。			
		(3)地域全体で子どもを守り育てる環境づくりの推進	地域を誇りに思い守り続けたいと気持ちを持つ子供を育てることが課題である。	教育大綱／第2期教育振興基本計画	同計画（次期）	
		(4)生涯を通して学び活躍できる環境づくりとスポーツ・文化の振興	生涯学習、伝統文化、芸術、スポーツに親しむ環境づくりが課題である。			
	⑦世界の宝にふさわしいしまにしよう	(1)世界の宝「生物多様性」を守り未来へつなぐ	自然環境の保全と地域社会が共存できる仕組みづくりや人材育成が課題である。	奄美大島生物多様性地域戦略		
				パトロール・水際対策	観察ルール	啓発活動など
		(2)世界自然遺産にふさわしい　持続可能なしまづくり	脱炭素への取組や地域循環共生圏の構築や自然の適正利用が課題である。	一般廃棄物処理基本計画（同実施計画・分別収集計画・災害廃棄物処理計画）※R7見直し		
				地球温暖化防止活動実行計画（事務事業編／区域施策編）		
		(3)世界自然遺産についての広報・PR	島内外に世界自然遺産の魅力を広報・PRすることが課題である。	奄美大島生物多様性地域戦略		
				自然体験会	こども世界自然遺産講	
	⑧みんなで「しまさばくり」をしよう	(1)集落や地域活動の活性化による地域づくり	リーダー人材の育成を含めた住民主体の課題解決や地域活性化が課題である。	自治会及び集落活動への参加（支援）		
				奄美会（出身者）との交流促進		
		(2)マルチステークホルダー・パートナーシップによる課題解決に向けた体制構築	持続可能な地域の未来に向けて、多様な主体による連携が課題である。	SDGs推進プラットフォーム／PPPプラットフォーム／高校みらいコンソーシアム		
		(3)男女共同参画社会の形成の促進	ジェンダー平等の実現による就労拡大など地域活力の活性化が課題である。	男女共同参画基本計画		
		(4)大学等との連携による関係人口の創出や「知」の還元	大学など高等教育機関との連携による関係人口増や研究成果の還元が課題である。	大学等との連携		
				奄美看護福祉専門学校への支援		
		(5)奄美大島共同キャンパスの具体化	大学等設立可能性調査有識者会議によって提唱された共同キャンパスの具体化が課題。	大学等との協定の推進		
				大学等の連携のあり方の検討		
		(6)公共施設の再編と活用	一人当たりの公共施設面積が県下19市で最も多く、将来的な適正化が課題である。	公共施設等総合管理計画の推進強化		
				民間提案制度の推進		

Ⅵ　戦略のポイントごとの施策一覧

基本目標	基本的方向	みんなの取組テーマ				
基本目標Ⅰ「みんなで生活満足度向上を目指します」	①子育ての“困った”をなくそう	(1)地域における子育て支援の充実を目指します	○	○		
		(2)親子の心とからだの健やかな成長を支えます	○	○	○	
		(3)支援を必要とする子どもや家庭への支援に取り組みます	○	○		
		(4)みんなにやさしい　“子育てのしま”を推進します	○	○		
	②健康・医療の“不安”をなくそう	(1)市民主体の健康づくりの推進	○			
		(2)健康を支え合う地域づくり	○			
		(3)医療の確保	○	○	○	○
	③身近な生活の“問題”をなくそう	(1)定住促進による活気のあるしまづくり	○	○		
		(2)暮らしを守る防災力の向上	○	○		
		(3)持続可能な地域公共交通体系の構築	○			○
基本目標Ⅱ「成長の源泉である元気な経済活動を目指します」	④しまで働く人を増やそう	(1)民間・行政が一体となり「働き手確保」に向けた「移・職・住」の総合対策の推進	○	○		
		(2)地域外から外貨を稼ぐ仕組みづくり	○	○		
		(3)多様な働き方の推進	○	○	○	○
		(4)しまの魅力発信の充実	○	○		
	⑤しまの「しごと」を応援しよう	(1)「ありのままのしまの魅力」を引きだす観光関連産業の進化	○	○		
		(2)「かせげる農林水産業」実現に向けた取組の推進	○	○		
		(3)チャレンジできる環境整備	○	○		
		(4)デジタルを活用した社会課題解決	○	○	○	○
		(5)誰もが情報を暮らしに活かせるしまづくり	○			○
基本目標Ⅲ「未来を担う次世代へ『しまの誇り』を継承することを目指します」	⑥しまで学ぼう　しまに学ぼう	(1)未来を切り拓くための能力を伸ばし、社会で自立する力を育む教育の推進	○	○		
		(2)信頼され、地域とともにある学校づくりの推進	○	○		
		(3)地域全体で子どもを守り育てる環境づくりの推進	○	○		
		(4)生涯を通して学び活躍できる環境づくりとスポーツ・文化の振興	○	○		
	⑦世界の宝にふさわしいしまにしよう	(1)世界の宝「生物多様性」を守り未来へつなぐ	○			
		(2)世界自然遺産にふさわしい　持続可能なしまづくり	○			
		(3)世界自然遺産についての広報・PR	○			
	⑧みんなで「しまさばくり」をしよう	(1)集落や地域活動の活性化による地域づくり	○			
		(2)マルチステークホルダー・パートナーシップによる課題解決に向けた体制構築	○			○
		(3)男女共同参画社会の形成の促進	○	○	○	
		(4)大学等との連携による関係人口の創出や「知」の還元	○			○
		(5)奄美大島共同キャンパスの具体化	○			○
		(6)公共施設の再編と活用				○

Ⅶ　＜参考＞奄美大島人口ビジョン 2025　41～42 頁　抜粋

3. 人口の将来展望

（1）人口の将来展望

目指すべき取組の方向を踏まえ、奄美大島が実現したい将来目標人口を下記のとおり設定する。

＜現状の将来推計人口：2060 年＞

33,209 人

将来推計人口より

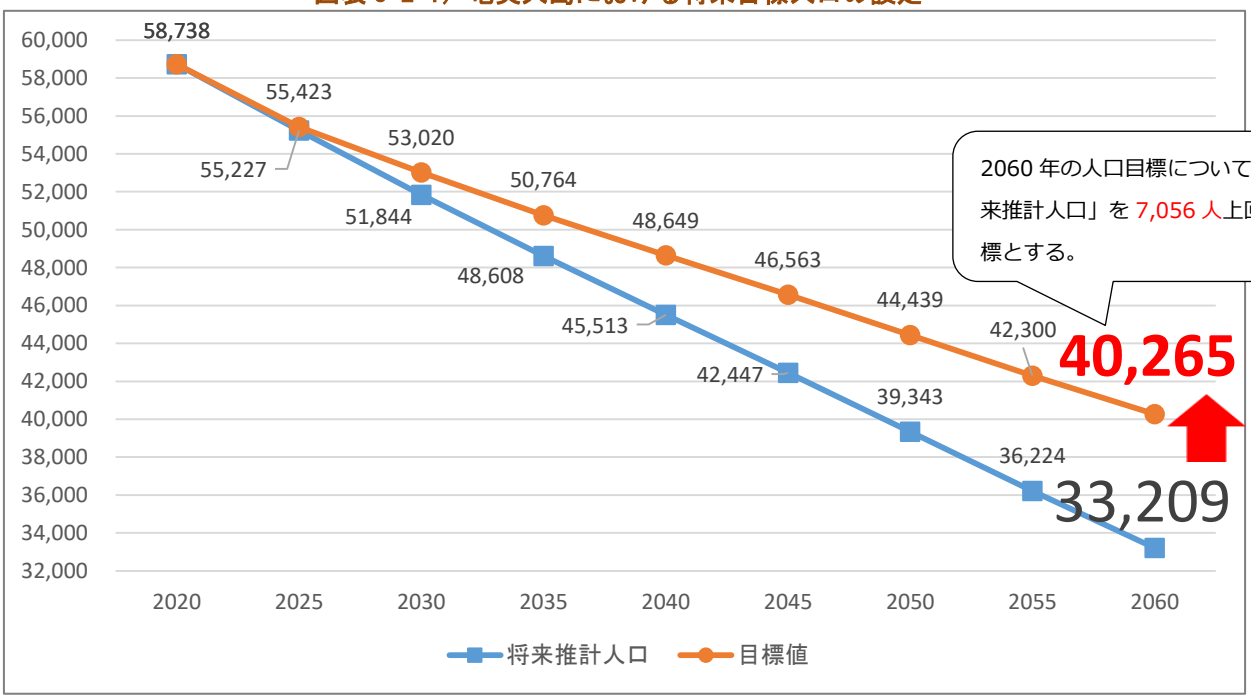
各年 196 人増を目指す

社会動態：188 人,自然動態 8 人

＜将来目標人口：2060 年＞

40,265 人

図表 3-2-1）奄美大島における将来目標人口の設定



出典：国立社会保障・人口問題研究所

※2051 年以降は各指標が一定で推移すると仮定して推計

（２）将来展望の詳細

① 社会動態の目標

奄美群島成長戦略ビジョン 2033 基本計画・実施計画（前期）（以下、「ビジョン」という）と整合性を図るため、社会動態についての考え方は同様とする。

【目標値の考え方】

ビジョンでは各島の社会動態をプラスに転じさせることを目標とし、各年の将来推計人口に社会動態の目標数分を加えたものである。奄美群島全体で年間 397 人の目標を掲げており、奄美大島だと年間 188 人の目標となる。

将来推計人口に社会動態の目標数分を加える。（各年ごとに 188 人加えた数値）

② 自然動態の目標

社会動態では奄美大島全体で年間 188 人の増加を目標とする。これを参考に自然動態での目標値を設定する。

【目標値の考え方】

社会動態では、奄美大島全体で年間 188 人増を目標とする。

↓

社会増のターゲット層は**子育て世代（25～49 歳までの男女）**とする。

↓

現在の男女比率はほぼ１：１なので、女性の社会増目標値を 94 人とする。さらに年齢階級ごとの出生率をかけ、出生者数の増加目標（年間）を算定する。

↓

将来推計人口に自然動態の目標数分を加える。（各年ごとに 8 人加えた数値）

	女性の社会増目標値	出生者数の増加目標
25～29歳	11	2
30～34歳	15	2
35～39歳	21	2
40～44歳	23	1
45～49歳	24	1
計	94	8

＜参考＞各市町村の目標値

○社会動態**(各年)**：奄美大島 188 人

奄美市 133 人、大和村 4 人、宇検村 5 人、瀬戸内町 27 人、龍郷町 19 人

○自然動態**(5 年間累計)**：奄美大島 40 人

奄美市 28 人、大和村 1 人、宇検村 1 人、瀬戸内町 6 人、龍郷町 4 人